

◇新武蔵野クリーンセンター周辺整備協議会3つの基本方針

施設整備の意義・あり方

- ・ライフスタイルを変える
- ・ごみの減量につなげる

計画段階での方針

周辺整備協議会での議論

エコロジーや省エネルギーによる低炭素モデルエリアを構築する

低炭素モデルの実現

環境啓発の拠点として、低炭素社会に向けた市民の行動をけん引し、市域全体に広めていく事業を行う

地域力の向上

地域力を結集し、地域力の向上・地域力を結ぶ核となる運営を行う

まちづくりとの連携

新施設や周辺施設とあわせて、緑化、景観形成、バリアフリー化を徹底し、地域の価値向上に貢献する

学習、雇用、産業、集いなどの機能を導入し、地域の活力の更なる向上に役立てる

さまざまな上位計画や整備事業と連動し、よりよいまちづくりに貢献する



◇これまでのエコプラザ（仮称）検討市民会議における議論

正副委員長の講義より

- ・だんだんと拡張していく、身の丈に合った建物をつくる
- ・価値の共創、プロセスの学習

新しい価値を創り出し、共有する場、なぜ？を次のステップとして学び続ける探究の場

メタボリズム

常に完成することなく、時代や環境、市民ニーズの変化などに対応し、フレキシブルに施設も人も育ち続ける施設

◆テーマの再確認（事務局案）

施設をつくる段階での再確認

市民自治を実践してきた本市ならではの施設として、市民とともに学び、育ちながら、施設自体も市民とともに育てていく。

また、新旧クリーンセンターの建設をはじめ、さまざまな環境の歴史や議論、成果や思いを全市民と共有していく。

低炭素モデルの実現

- ごみに始まり、様々な環境要素を想起させられることで、環境学習や実態の活動につなげていく環境啓発の拠点
- クリーンセンターの廃熱、ごみ発電を活用した本エリアにおけるエネルギーマネジメントやごみの発生抑制をはじめとした多様な環境活動等を実感、体験できる施設

地域力の向上

- ごみ、環境を媒介として、新たな市民活動の創出等を通して、地域の活性化や地域力の向上に資する施設
- その市民活動が全市的に広がっていくことを支援していく施設
- 日本全国様々な地域とのつながりの中で、エコプラザ（仮称）及び武蔵野市から環境に根ざした地域づくりを発信していく施設

まちづくりとの連携

- クリーンセンター周辺の良好な住環境等も含めた「中間処理施設としての機能と外観」「誇れる住環境」「先進的なエネルギー連携」「災害にも強い施設・エリアづくり」等が一体となった、全国を先導するまちづくりとしてのモデルの提示
- クリーンセンターは、市民参加による施設づくりの成果として、グッドデザイン賞を受賞するなど、市民の誇りとなる地域づくりの象徴としての役割を持つ施設

メタボリズム

- 日々刻々と変化する環境問題や環境に対する市民意識に沿って、完成形を求めるのではなく、市民とともに育て続けていく施設
- 時代の変化に対応し、次々に起こる環境の問題に対処できるように、施設だけでなく人も育っていく施設
- テーマ自体も検討過程で変わっていくことができ、施設の価値や目標をともに作り、共有していく施設